

6月9日（月）に深日漁港ミニ砂浜の状況確認のために、CIFER・コア理事の横山隆司と特別研究員の久保忠義が現地を訪問しました

梅雨の晴れ間の暑い日で、岬中学校横から砂浜に降りていくと、干潮状態の干潟周辺にハマウドらしき植物が小さな花を咲かせていました。4月28日のミニ砂浜造成イベント時にはハマダイコンの花でしたが、季節とともに植生も変わります。

造成したミニ砂浜は潮に幾度となく洗われて、周囲になじんでおり一月前に砂を投入した場所とは思えません。砂浜に近い水中では、1cm足らずの四角い影が数10以上の群れで一斉に動いていました。小さなカニです。また少し離れた水面に近付くとあちらこちらに波紋があり、10cm足らずの魚が元気に飛び跳ねていました。ボラの稚魚のようです。初夏になって生物が湧いているような雰囲気です。

水辺を歩くうちに、横山理事が白い爪を発見。甲羅が2cmほどのハクセンシオマネキです。大阪市立自然史博物館館長の山西良平様のご指摘どおり、やはりいました。

大阪湾海岸生物研究会のブログ (<http://dhatena.ne.jp/osakawan/20140516#p1>) をご覧いただくと、ここには90種底生生物と海藻が生息しており、「大阪府レッドリスト2014」に掲載されている絶滅危惧種もいるようで、干潟の自然を知るためには、コンパクトながら貴重な場所のようです。今後とも継続的な観察と保全が求められています。

